

平成28年9月定例会 自然再生・循環社会対策特別委員会の概要

日時 平成28年10月12日(水) 開会 午前10時 4分
閉会 午前11時40分

場所 第5委員会室

出席委員 諸井真英委員長
小久保憲一副委員長
神谷大輔委員、板橋智之委員、中野英幸委員、渋谷実委員、山根史子委員、
山本正乃委員、醍醐清委員、西山淳次委員、村岡正嗣委員、中川浩委員

欠席委員 鈴木弘委員

説明者 [農林部]
河村仁農林部長、篠崎豊農林部副部長、松村一郎農林部副部長、
山崎達也農業政策課長、強瀬道男農業ビジネス支援課長、
石間戸芳朗農業支援課長、持田孝史生産振興課長、岡眞司森づくり課長、
大関早孝農村整備課長、田中誠農産物安全課長、岩田信之畜産安全課長、
[環境部]
松山謙一エコタウン環境課長、安藤宏資源循環推進課長、
豊田雅裕みどり自然課長
[県土整備部]
酒井敦司水辺再生課副課長

会議に付した事件

循環社会の形成に向けた農林業・農山村づくりについて

神谷委員

- 1 農地を維持するには、ほ場整備の推進が重要だと思うが、課題は何か。
- 2 資料3ページの「農業水利施設の計画的な補修や更新」というのは、誰がどのように行うのか。
- 3 バイオマス活用推進計画について、市町村の地域特性を生かした計画の策定を促進することのだが、現在県内で策定している市町村はいくつあるのか。また、どれくらいの市町村が着手し、県としてはどれくらい進んでいると思っているのか。
- 4 バイオマス製品の例としてパレスホテル大宮が挙げられているが、ほかにはどこがあるのか。また、県としてどのように推進に取り組んでいくのか。

農村整備課長

- 1 農地の貯留機能を維持するには、農地を適切に管理し、維持していくことが重要であることから、県ではほ場整備を推進している。ただ、農家の高齢化が進む中で、ほ場整備を望む農家がいる一方、多額な経費負担に消極的な農家も多く、なかなか地域の合意に至らないことなどが最大の課題となっている。
- 2 農業水利施設の機能を適切に維持保全していくためには、適時適切な補修や更新の実施が必要である。県内には、農業用取水せき、幹線用水路や排水路、揚水機場や排水機場などのいわゆる基幹的農業水利施設が490施設ある。これらの施設は、管理者である市町村や土地改良区により適切な維持管理が行われており、必要に応じて軽微な補修や修繕等が行われている。ただ、近年、戦後の経済成長期に造成され、耐用年数を超える施設が増えていることから、経年劣化が進み、維持管理が困難になっている状況である。このうち、県営事業により造成された83か所の農業水利施設においては、優先順位を付け、県がストックマネジメント事業により計画的に修繕・更新を行っている。一方、それ以外の団体営事業等で造成された小規模な農業水利施設については、管理者である市町村や土地改良区が、自ら実施する点検等の結果に基づいて優先度を判断し、劣化予測や対策工法の検討を行うとともに、対策工事を実施している。

農業ビジネス支援課長

- 3 県内の市町村で計画を策定しているのは秩父市のみである。現在、制度の普及啓発や事例などの情報提供を行い、計画の策定を促進しているが、現時点で他の市町村に具体的な動きはない。更に増やす必要があると考えている。
- 4 リサイクル・ループの県内事例としては、県内の生協で店舗から排出される食品残さと生協の一部の組合員の家庭からの食品残さを吉川市の米生産者のもみ殻と合わせて、食品リサイクル事業者が堆肥化し、その堆肥を吉川市の米生産者が使って米を生産し生協で販売する取組がある。また、総合スーパーであるイトーヨーカドーが中心となって、店舗から出る食品残さを食品リサイクル事業者が堆肥化し、その堆肥を使って深谷市内の農業法人が野菜を作り、それをイトーヨーカドーの店舗で販売する取組が行われている。

リサイクル・ループを推進するための県の取組については、リサイクル事業者や行政の職員、農業者、県民の方を対象に研修会を毎年開催し、研修会の中でリサイクル・ループの事例紹介をしている。また、県のホームページでも事例等を紹介している。さら

に、リサイクル・ループも含めた食品リサイクルの事例集を作成しており、関係事業者や市町村に配布し啓発活動を行っている。加えて、農業ビジネス支援課内に相談窓口を設置しており、事業者等からの相談があった際には事例の紹介等も行っている。

パレスホテル大宮の例では、生産組織の設立の支援やリサイクル堆肥を使った栽培試験を生産者が行った際の技術的な支援を行った。事業者が動き始めた段階で技術的な支援を実施している。

神谷委員

バイオマス活用推進計画を策定しているのは秩父市のみで、今後更に策定を促進していくとのことだが、県が市町村に広域での計画の策定を提案できないのか。

農業ビジネス支援課長

バイオマス活用推進計画については、策定主体として市町村が基本であるが、市町村同士が連携して広域の計画策定も考えられる。状況を見ながら必要なものについては広域での策定について市町村に働き掛けていきたい。

山本委員

バイオマス活用推進計画の策定促進については、市町村に対して制度や事例などの情報提供を行っているということだが、具体的に市町村に対して行った取組はどのようなものか。

農業ビジネス支援課長

バイオマス産業都市構想を市町村が中心になって作ると、国の支援措置が受けられるという制度がある。その応募には市町村のバイオマス活用推進計画の策定が条件になっており、応募の周知と併せて市町村に情報提供を行っている。現在のところ、具体的に特定の市町村に絞って働き掛けをしているところまでは至っていない。

山本委員

8月に本委員会で福岡県大木町のおおき循環センターくるるんを視察した。このような全国の先進事例を県として市町村に発信していくべきではないか。

農業ビジネス支援課長

バイオマスの活用を進めていくには市町村の取組が非常に重要であると考えている。現在も県内の食品リサイクル事例集を作成して市町村などに提供しているが、全国の先進事例など更に幅広い情報収集を行い、市町村に提供していきたい。

板橋委員

- 1 資料1ページの1年間の雨量について直近のデータを教えていただきたい。
- 2 魚道整備について、生態系への配慮ということから魚の居場所を作るというのは分かるが、水質の変化など別の効果はあるのか。
- 3 間伐などの手入れの遅れは水源かん養機能の低下につながるとのことだが、そのほかにはどのような影響があるのか。
- 4 12, 107ヘクタールの森林整備は計画どおり進んだものか。
- 5 間伐など森林整備に従事する人材をどのように確保しているのか。

6 森林の所有者と県産木材の使用を促進する林業の関係はどうなっているのか。

農村整備課長

- 1 熊谷気象台のデータで、1981年から2010年までの30年間における年平均降雨量がおおむね1,200ミリメートルである。
- 2 入間川の農業用水せきの上下流で段差ができており生態系が分断されていた。その場所に魚道を整備することにより魚類の遡上が可能となり、生存環境は非常によくなった。魚道によって水質が上がるといったことはないが、魚が遡上することで、人がそこに集まり、にぎわいが創出されるといった効果がある。

森づくり課長

- 3 間伐が遅れると、森林内に光が入らず、下草やかん木が成育できなくなり、表土が流出し、木の根の張りも十分でないため土砂の流出や土砂崩れなどの災害が起きやすくなる。さらに、間伐をしないことで木が太くならず、経済的価値が低下し、林業経営の上からも損失となる。
- 4 間伐などの森林整備は、5か年計画で年間2,800ヘクタールを目標としており、5年間の合計は14,000ヘクタールとなる。森林所有者の同意に時間を要するなどしたため、平成23年度から平成27年度の5年間における森林整備の実績は12,107ヘクタールで、計画量に対し、約86パーセントの進捗となっている。健全な森林を維持していくためには、適時適切な森林整備を行う必要がある。このため、関係機関と連携して森林所有者に働き掛けるなど、目標達成に向けて取り組んでいく。
- 5 県では、森林組合などの林業事業体に対し、労働安全指導や健康保険の加入費支援などを行っている。また、森林組合等の林業事業体で就業している若い作業員を中心に、高性能林業機械、チェーンソー、刈り払い機などの資格取得を支援している。さらに、林業労働力確保支援センターが行う労働者の募集、雇用管理を目的とした研修などの活動を支援することで、労働者の確保・育成を促進している。
- 6 県内に1ヘクタール以上の森林を保有している人が、約7,700人おり、八高線以西に森林が多く分布している。県内には4つの森林組合があり、森林所有者の委託を受けて施業を行っている。木材価格が安いこと、造林コストが高いことなどが影響し、県産木材の供給が進まないが、生産コストなどを下げる取組により、採算性を高め、収益を上げる林業を進めたい。

板橋委員

- 1 材木として価値のある木、節のない木などがあるが、間伐ではどのような木を切るのか。
- 2 伐った木を運ぶための道の整備が必要である。道の整備の状況はどうか。
- 3 最近、どこに樹齢何年の木があるかが管理できるなどの森林の見える化の取組が始まっている。県での取組はどうか。

森づくり課長

- 1 間伐にもいろいろあり、かつては成長の悪いものを伐っていた。最近は、利用できるものを間伐する収入間伐を進めている。
- 2 道の整備は、労働環境の改善の点からも重要である。作業道などの密度は、1ヘクタール当り50メートルを目標に進めている。

3 森林の見える化については、3Dレーザースキャナなどを活用し、ICTで曲がり材や樹種が分かる技術がある。これらの技術に注目し導入支援も視野に入れ、生産コスト削減を進めたい。

渋谷委員

農地は水源かん養、緑を守る、温暖化防止など地域社会への効果があるが、農家は10アール当たり5,100円の用排水のための負担金を土地改良区に支払っている。これは県が負担すべきではないか。

農林部長

今後、農地の大区画化が進み、農家が減っていくという中で、土地改良区への負担金を支払うことが難しくなっていく。負担金の制度の在り方については、国も県も考えていく必要があると考えている。国と相談しながら検討していきたい。

渋谷委員

農家は減反もして負担金も支払っている。農家の高齢化が進み、田が作れない人は10,000円払い作ってもらっている。更に負担金が15,000円かかる。費用がかさむため、人に貸すことを含め、自ら田を使わないという状況である。水田の価値がこれだけあるのだから、県がしっかり土地改良区に対して支援すべきではないか。土地改良区は県が許認可している団体である。国に相談するのではなく、県で考える問題ではないか。

農林部長

水田が多面的な機能を有していることは国も認めており、現在、多面的機能維持支払交付金を法制化し維持活動に対する支援を行っているが、これは土地改良区の負担金とは異なり、維持活動に対する支援である。土地改良区は県が許認可する団体であり、もっと県が積極的に支援すべきとのことについては、この場での回答はできかねるが、今後考えていく。

渋谷委員

森林については、昭和40年代に原生林を伐採して植林したため水害がよく発生した。野生動物も隠れるところがない。広葉樹を残さないといけない。県が環境に配慮する考えを持つ必要があると思うがどうか。

農林部長

広葉樹がなく山の動物が出てきて獣害等が発生していることは認識している。埼玉の森を守るため県としては、二つの方策をとっている。経済活動が可能なエリアでは、針葉樹中心ではあるが、「伐って・使って、植えて、育てる」という循環利用を進めている。一方、条件が難しいところは、あまりコストをかけずに針広混交林化を進めている。森を大きく二つに分けて両立させて守っていく。

渋谷委員

水源かん養の上でも、森は守らなくてはならない。県産材は高い。安くなければ利用されない。県が補助金を出して林業従事者が生活できるようにしなければ、後継者が育たない。(意見)

中川委員

- 1 平成24年9月定例会の本委員会において、西武鉄道では駅のベンチに県産木材を使用しているが、他の半公共施設では県産木材の利用が進んでいないと問題提起をした。森林組合ではいろいろな県産材の商品を販売しているが、知らない人もたくさんいる。行政施設以外の半公共施設での県産木材の利用状況の変化について把握しているか。
- 2 森林所有者の高齢化で森が売られて墓地になってしまう例もあるが、高齢化に対して関係部署や市町村とどう連携していくのか。
- 3 具体的な事例として、所沢市の森林で墓地開発が行われている。森林保全のために県としては何ができるのか。知事は昔の緑を取り戻したと言っているが、高齢化により森を守る人がいなくなる。危機感を知りたい。
- 4 今後の人口減少、高齢化の中で、本県の耕作放棄地がどのくらいになると見込んでいるのか。
- 5 スーパーマーケットが農地の利活用を始めているという話をよく耳にするが、それは本来農協の役割ではないか。
- 6 埼玉県内でも個人が会社や組合を設立し、農業参入している事例がないわけではないが、高齢化による離農者数の増加スピードに追い付いていないのではないか。

森づくり課長

- 1 県産木材を60パーセント以上使った住宅を対象とした補助事業を平成26年度から始め、初年度145件、次年度225件と補助件数が伸びている。また、大宮の分譲マンションでは、西川材を使用した内装の木質化に取り組んでいる事例がある。
- 2 森林所有者の高齢化による一番の問題は、森林の境界が不明になることである。市町村を通じて境界をデータに残す境界明確化を進めている。

みどり自然課長

- 3 県立自然公園の普通地域のため、森林の伐採や土地の形質変更などで一定面積以上を利用する場合は届出制になっている。今回の事例については既に届出がされている。県としては可能な限り自然環境を守りたいと考えている。近隣の狭山湖周辺591ヘクタールは鳥獣保護区の特別保護地区に指定しており、開発は許可制となっている。土地の地権者に協力いただきながら保存していきたい。

農業ビジネス支援課長

- 4 県内の遊休農地面積は、平成26年時点で3,719ヘクタールあり、農地面積全体の4.6パーセントに相当する。高齢化により遊休農地が増える可能性があるため、農地中間管理事業を活用し、リタイヤされる方の農地を担い手に集積し遊休化しないようにする取組を進めている。今後、農地中間管理事業を更に活用し担い手への集積を進める。また、市町村が中心となり、地域の「人・農地プラン」の策定を進めており、計画的に担い手への集積を進めていく。将来、遊休農地面積がどのくらいになるのかを示すのは難しい。

農業政策課長

- 5 現在、農協については、法改正もあり大きな改革が行われている。JAグループさいたまにおいても、農業者の所得増大に向けた自己改革を進めていることから、県としてもその状況を注視していく。組合員の利益になることが農協の役割であり、県としても

農協と連携して農家のための支援に取り組んでいく。

- 6 農業従事者の高齢化については深刻な問題であると認識している。平成27年の基幹的農業従事者数は、平成7年に比べ、35パーセント減少している。基幹的農業従事者の67パーセントが65歳以上で、39歳以下は4パーセントという状況である。担い手の育成が重要な課題となっており、若者の就農支援に取り組んでいる。また、地域の理解を得た上で企業参入による農業振興策も検討できるのではと考えている。さらに、農業を継続できない人の農地を担い手に集積していく取組も進めていく。

中川委員

- 1 半公共施設に県産木材製品のPRをしているのか、していないのかを聞きたい。
- 2 所沢市の墓地の問題は、隣接地を県・市が購入していれば起きなかったのではないかと。緑の保全についての危機意識を伺いたい。
- 3 今後の遊休農地の面積がどう推移するのかを示すのは難しいとのことであるが、10年後の状況を見据えた方が、改革が進むのではないかと。危機感を持って検討するのか伺いたい。
- 4 農協は直売所の新設や社屋の建設に力を入れているように感じる。もっと担い手への支援を行うべきではないか。

森づくり課長

- 1 木材製品市場4か所で木の祭りをを行い、3,200人が集まった。その会場で、県産木製品の販売や木工工作を通じてPRしている。また、農林公園や森林科学館で木工工作体験を行い、木の利用の理解を深めていただいている。

みどり自然課長

- 2 緑の保全については、厳しい状況にあると認識しているが、保全の手段も限られている。公有地化という手段もあるが多額の費用がかかる。また、地権者の合意も必要となる。今後とも、緑の保全について努力していきたい。

農業ビジネス支援課長

- 3 担い手の育成状況や農地の集積状況を勘案して試算することを検討したい。農地中間管理事業を進めているが、危機感が高い地域ほど事業の活用や地域の話合いが進むので、危機意識を持つことは重要と考えている。

農業政策課長

- 4 委員の地元、いるま野農協は資金力もある大きな農協であり、農産物の販路拡大のために直売所を整備している。農協の資金は主として農産物の販売拡大など、組合員である農家のために使われるべきと考える。ただ、十分に農協の恩恵を受けていないと考えている組合員も少なくない。農協では担い手サポートセンターを設置し、担い手への経営サポートを強化している。そこには県の普及指導員のOBが参画しており、連携して成果を上げていきたいと考えている。

中川委員

県産木材製品のPRの仕方を変えないといけない。林業の担い手が評価できるかどうかという視点でのPRが必要である。例えば、各地域のケーブルテレビを活用すれば費用も

抑えられる。また、県産木材を使ったことがない人が急に住宅に使うとは思えない。まずは、半公共的施設に県産木材製品を置いて、使ってみたいと思ってもらうことが必要ではないか。

森づくり課長

ケーブルテレビの活用など貴重な意見を頂いた。林業のPRが十分ではないと認識している。2年ほど前に埼玉県木材協会が、伊勢丹浦和店脇の林材会館4階に木育スペースを整備した。親子が木に親しめるスペースであり、このスペースの利活用を進めるとともに、様々なメディアを利用してPRしていきたい。

醍醐委員

農業後継者が不足していることもあり、水田に土を入れ畑に転換する事例がある。転用規制についてどのような方針で対応しているのか。

農業政策課長

農地改良を目的とした一時転用許可については、技術的基準を設けるなど周辺農地の営農に支障を及ぼさないように、また、無秩序に転用されないよう指導を行っている。

醍醐委員

安易に埋め立てられることにより、水田の貯留機能も低下することから、市町村と連携して指導を徹底してほしい。（要望）

村岡委員

- 1 資料の1ページの「水田に貯留できる水量」のシミュレーションにおける「埼玉県全体の水田面積」について、42,000ヘクタールと記載されているが、これは作付けされている面積なのか。耕作放棄地等は含まれていないのか。
- 2 本県の木質バイオマスの利用が進まない理由は何か。
- 3 本県の木材の消費量は増えているか。
- 4 林野庁の資料によると、製材残材が全国で850万立方メートルあり、利用率が95パーセントとのことである。県の利用率は99パーセントと優れている。しかし、未利用間伐材等は全国で2,000万立方メートルあり、ほとんどが未利用の状態である。県も同様の状態だと思うが、間伐をどの程度行い、どの程度利用しているのか。

農業政策課長

- 1 統計上の耕地面積では平成27年の田は42,300ヘクタール、田における延べ作付面積は42,200ヘクタールであることから、耕地利用率は99.8パーセントである。延べ作付面積には水稻以外の大豆などの作付けも含まれている。

森づくり課長

- 2 木質バイオマスについて、施設での利用は進んでいないが、地域で熱利用として活用しようとする動きはある。課題はチップを収集するコストを下げることである。
- 3 住宅での木材需要をみると、平成27年度の県内の木造住宅着工戸数は約35,700戸で、木材使用量は約111万立方メートルと推計している。昨年度、埼玉県で生産された木材は87,000立方メートルであり、その差はまだ大きい。

- 4 間伐材は、10万2,000立方メートルのうち32,000立方メートルが搬出されて、利用されている。70,000立方メートルが未利用となっている。

村岡委員

- 1 水稲が作付けされている水田の方が循環社会への貢献という点で機能していると思うが、水田が畑地利用されている場所や休耕になっている場所をどのように考えているのか。
- 2 間伐材の利用が難しいのは分かるが、間伐をしないと山を健康に維持できない。間伐材をどう製品化していくかを考えていかなければならない。木質断熱材として製品化していくという話があるようだが、農林部としてどう支援するのか。
- 3 木材を使った耐火構造建築も可能となり木材市場が拡大している。また、海外では木造のビルなども建築されている。県として今後どのように木材の利用拡大に取り組んでいくのか。
- 4 針広混交林は重要と考えている。彩の国みどりの基金を活用するとのことだが、予算規模はどれくらいか。

農業政策課長

- 1 水田が水田として使われることにより保水機能が保たれるため、これが一番良いと考えている。しかし、水田経営は非常に厳しく、水田を水田として使っていくのは難しい状況である。県としては、彩のきずななど新しい品種の開発により売れる米づくりや、飼料米や酒米などの用途に応じた品種の導入など、収益性の高い米づくりを支援していきたい。また、農地を守るためには、担い手に農地を集積し生産コストを下げる必要があるので、農地中間管理事業などを活用し取り組んでいきたい。

農村整備課長

- 1 一反区画の農地が遊休化している状況がある。一反区画の農地の大区画化や汎用化を図り、担い手が耕作しやすい条件整備をすることにより水田の維持を進めていきたい。

森づくり課長

- 2 木質断熱材は、グラスウールに比べて断熱機能は同等で調湿機能もあると聞いているが、価格が高い。バイオマスと同様にチップをどう供給するかを検討する必要がある。
- 3 CLTと呼ばれる厚型パネルなどの資材により、大規模な木造建築ができるようになった。県としても、情報を収集して新しい技術を活用しながら、木材利用の拡大に努めていく。
- 4 水源地域の森づくり事業の予算規模は6億4,400万円で950ヘクタールを整備する。このうち、725ヘクタールが針広混交林の整備である。

村岡委員

- 1 夏場だけでも休耕田に水を張ることで気温上昇を抑えることができるという研究者もいる。費用負担の問題もあると思うが、どのように考えているか。
- 2 埼玉の農林業を元気にして循環社会を推進すると部長から発言があったが、どのように推進していくのか。

農業政策課長

- 1 作付けされているところであれば、農業者の方は自身で負担して水を確保しているが、休耕田に水を張ることについては、費用負担が必要となることから、一つの課題として受けとめさせていただきたい。

農林部長

- 2 埼玉農林業はもうかるということが農家の方々にしっかり伝わり、生産意欲が向上していけば、様々な問題は解決し、多面的機能も維持されていくと考えている。もうかる農林業を進めていくため、まず、担い手に農地を集積する。高校、大学、就農、法人化というところまで切れ目なく就農支援し人材を育成・確保する。魅力ある農産物を生産する。試験研究機関を活用し他産地に対抗できるブランド化を図る。これらを総合的に実施することにより、埼玉ならではの農業を実現していきたいと考えている。